

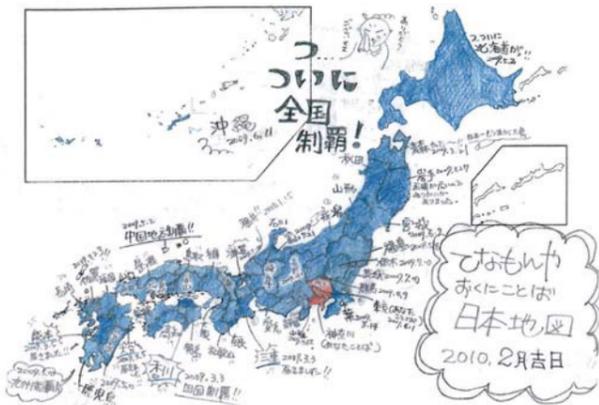
世界の中心で

「じほんですよ」と、さげびたい



活動を始めたころ、取り組みを知ってもらおうと地道に約50通の手紙を友人に送りましたが、反応はゼロ。これではいかんと、機関紙発行などアクションを起こし、その後口コミで徐々に活動の輪が広がり始めました。また、ブログを立ち上げ世に発信することで、取り組みが浸透していきました。

しかし、ブログを立ち上げた平成17年3月、世間では改憲派が6割を占め、自分の活動が目の上のたんこぶになるのではないかと不安になっていました。「一度だけ批判的な意見が書き込まれましたが、私も意見を書くことで心の距離を縮められた。やはり対話は大事」と当時を振り返ります。



▲ブログのトップを飾り続けた日本地図。何度も鉛筆で書き足し、消しゴムで消した跡が、「勝手に憲法前文をうたう会」の歴史がここに詰まっています。約5年の歳月をかけ、山本さんの思いが県境を越えて人々の心に届きました。

祖父の手紙

山本さんは、ニラ農家の2児のお母さんです。本ができるまでの過程では、まるで見えない糸が突然につながっていくような多くのエピソードで包まれていました。

以前は、祖母から聞かされる戦争の話に対して反発心を抱き、戦争から目をそらしてきました。しかし、子どもができて母親になったことや、太平洋戦争で戦死した祖父の3回の死亡通知と家族への手紙、それらをじっくり見ることで、平和への思いを鮮明にしていっていったようです。

祖父が戦死した年齢と同じ年齢になった自分。主婦として畑に向かいながら子どもたちと日本の将来を思いながら、やっと祖父の手紙に今、きちんと向かい合えたそうです。



憲法前文のお国ことば訳は
畑の中心から平和を叫んだ

ニラ農家の
お母さんの祈りです

「世界中どこの国の人も怖がったり、ひもじかったり、難儀をせんずつ平和に生きる権利があるがやと思うちよります。」
(ブログより)



山猫母 Profile

山本明紀(やまもと あき)
野市町東野在住の42歳。「縁も運も天からのまわりもの」がモットーで、平和をこじやんと願う「ばちさん」。
■ブログ:てなもんやLOVE&PEACE
<http://plaza.rakuten.co.jp/tenamonya/>

戦地から届いた手紙

山本さんのお母さんが、祖母に届いた手紙を整理して一冊(80ページ)にまとめました。祖父が戦死する前日に雨の中で書かれた手紙にある最後の一文が、表紙に添えられています。

その祖父が祖母に宛てた、最後の手紙を紹介します。

大命を倅じ出撃する 武人の本懐之に過るものなし
死は易く生は難し 死して護国の神とならん
長々の苦勞を謝す 子供を立派に教育してくれ
健三の武運を祈る
世人の情に感謝すべし
遺留品は全部下宿に在り 篠原様に頼んである
大のフーリの中に白い風呂敷一包在り戸波村出身中村孝一の預かり品なり 遺族に渡され度し
遺骨帰郷するとも葬式は戦争終わる迄すべ可らず 為念

一金、貳百五拾円也

右金使用残金に付 遺書と共に同封す

篠原様には色々親身も及ばぬ御世話様に成った

何か形見の品を差し上げてくれ

今日は最後の日で短時間のひまを頂き 軍刀を取りに帰った雨がふっている



案内するのは 各県代表のネコたち



「日本国憲法前文お国ことば訳」には、各都道府県のページに「猫」が登場します。これは、出版社の企画で実現し、猫好きで知られる動物写真家、岩合光昭さんが各地で撮影した写真が使われています。

なぜ「猫」なのか。岩合さんは「猫＝平和主義者」ととらえています。

岩合さんの談話の中で「世界中のネコを見て回る仕事をしていて感じるのは、ネコが幸せに暮らしている風景は実に平和で、日本国憲法の目指す世界平和に通じるところがある」とコメントしているところから、その意味があらわれます。



五月二十一日
良子殿

繁喜